自主保全士成績優秀者　インタビュー

検定試験の成績優秀者4名の方から、自主保全士としての心構え、試験に向けての過程、表彰されたことへの思いを伺いました。そこには自主保全に対する高い意識が感じられました。

2級受賞者

玉野化成株式会社
山脇 望恵さん

資格取得をきっかけに他部署との連携が密に。

玉野化成は自動車用ウォッシャーノズルで国内シェア70％を誇る、プラスチック成形技術のトップメーカーだ。同社の製造２部検査課に所属する山脇望恵さんは、勤続23年のベテランであり、現在は班長として生産進捗管理、生産計画の立案を行っている。彼女が保全士検定試験に挑戦したきっかけは、2年前の班長への異動だった。

「製造２部では半自動機と自動機を合わせて196台が稼働しています。就任当時はトラブルが頻発してスケジュールどおりに進まないこともあり、納期の調整に頭を悩ませていました。そんなとき『自分でできることはないか』と考えるようになりました」

保全員がどのように機械をメンテナンスしているか説明を受けたところ、「多少なりとも自分が関与できる作業はありそう」と感じ、すぐに上司に相談。そして自主保全士の資格取得を目指すことになった。

その後、月1回の社内勉強会に参加すると共に、保全員から、設備について直接指導を受けた。

「部品がどこに使われてどう動くのかが分からない。そこで専門家である保全員に教えを請いました。時には機械の下に入って、具体的な動作を見たこともありました」

資格取得後の仕事への関わり方は大きく変わった。

「共通言語を持ったことで、各部署との話がスムーズになりましたね。また設備の大切さと保全の技能を学んだことで、設備の新規立ち上げの際も自分の意見を生産技術に伝えやすくなり、治具などについてもメンテナンスの観点から改善を提案できるようになりました」

同社は2024年度の試験に女性社員6人が挑戦し、5人が合格。

「当社の自主保全士への取り組みはスタートしたばかりですが、自主保全について知るほど、製造現場に必須の資格だと感じます。現場の人たちが全員持っていたら、確実に製造は変わります」と力を込める。

次は自主保全士1級を目指すという山脇さん。彼女の挑戦は製造現場に新たな可能性を生むことになりそうだ。